



ネット・市民の会
いちぢ 恭子

自治体から新しい「経済＝経世済民」のモデルを

認定

気候危機時代の「経済」とは

不安定な社会状況下にあっても運営は調整で、その点は行政側の努力を評価します。しかし、積み重ねた業務の中でさらに贅肉を落とし、無駄を省き、必要なところに必要な予算を充て健全に執行するという、基本的な努力と工夫はさらに磨いていく必要があるでしょう。

地球沸騰化と言われる今、地震や酷暑、豪雨などあらゆる危機から市民を守るための、新しい「経世済民」モデルが地方自治体にも求められていると思います。

すべての市民に移動の権利の保障を

また今回は特に、ミニバス事業や困難を抱えた子どもの通学問題を通して、市民の権利について「移動」という側面から論じました。

個々の所管の専門性は高く堅持されるべきものですが、市民の暮らしは行政の分類通りに構成されている訳ではありません。必要に応じて関係各所が連携を深め、横断的・包括的な支援を行えるよう、より「使い勝手の良い」制度へと刷新していく努力を求めます。



あすたま・維新
おにつか こずえ

インクルーシブ教育を進めてほしい

認定

多摩市は障がいの有無にかかわらず誰もが地域や学校などで共に支え合って暮らす共生社会の実現をめざしています。しかしながら実際には障がいのある人とない人が共に過ごす環境が整備されているとは言い

難い状況です。全校にピアティーチャーが配置され年度途中であっても、配慮が必要な児童生徒に対しては補正予算により対応している点は評価します。それでもなお個別のニーズに応じた支援はまだ必要です。車椅子でも教室に入れるような環境整備など障がいに対応する設備についても、検討いただくことを期待します。

予算の流用について

認定



青空りっけん
しらた 満

令和5年度の単年度収支2億3548万円の赤字に注意。予算流用件数が71件、総額2614万2千円。流用件数は年々増加。予備費や流用で対応した事例の改善の徹底を図り、不交付団体の多摩市は自主自立的な経営をし、今後の予算編成に工夫を重ねて頂きたい。

将来を見すえた計画的な施設整備を

認定



多摩みらいの会
しのづか 元

ニュータウン開発とともに短期間で整備してきた公共施設の更新は、今後の重要な課題です。将来負担を軽減する手法の検討や、住民ニーズの変化に柔軟に対応できる施設整備を求めます。計画的な維持補修と、それを支える技術職員のスキルアップに取り組むべきです。

決算を認定。適正な事務執行を。

認定



志政会
藤原 マサノリ

市税収入が堅調に増加している事や、地方債の償還が順調に進んでいる点から、市財政が健全である事を評価。一方で、多件に及ぶ予算の流用や人的ミスによる収入未済額。そして、積算方法の甘さによる多額の不用額は、重要改善課題として指摘します。

人生100年時代 訪問介護の充実を

認定



多摩の風
折戸 小夜子

地域包括支援センター5か所のうち高齢化率は西部25.2%、東部27.3%、中部40.9%と中部が突出しています。

訪問介護を安心して受けられる体制を強化するには、ホームヘルパーの待遇改善こそ喫緊の課題、全国市長会から国へ申し入れを。

AIの発展で変化はさらに加速

認定



日本維新の会
藤條 たかゆき

決算評価の手法もAI活用でヒューマンエラーを減らし、リアルタイム評価も可能になってくるでしょう。効率的な仕組みを整える必要性が高まっています。時代の後追いをして「対応」するのではなく、自らの意思で「適応」していくことが我々の役割と言えるでしょう。

